

〒683-0853 米子市両三柳4571-10

TEL : 090-5702-1356 / FAX : 0859-57-4137

mail:seibu.salon@gmail.com / URL:nakama-saron.com/

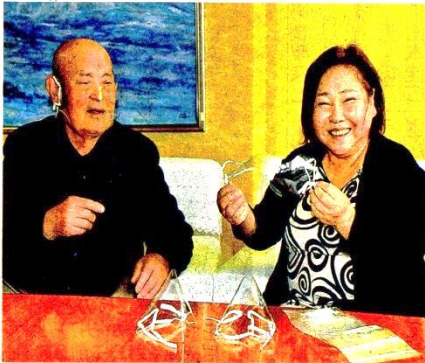


日本海新聞に掲載されました！！

5月22日(金)

透明マスク試作重ね完成

米子のNPO 口の動き分かるよう



新型コロナウイルス感染予防のマスク着用で聴覚障害者のコミュニケーションに支障が出ているため、NPO法人西部ろうあ仲間サ

透明マスクを作製した西部ろうあ仲間サロンの森田理事長(左)と次江さん(21日、米子市役所)

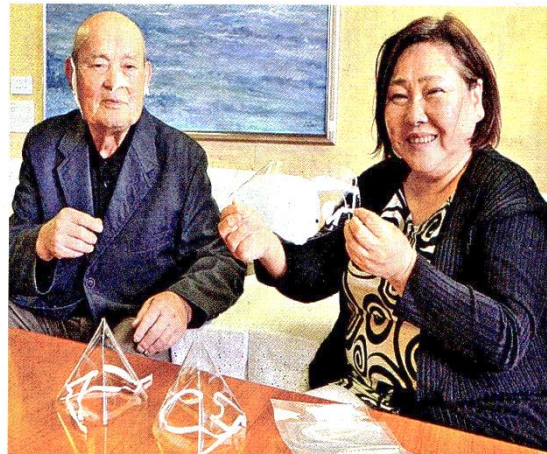
の子どもたちに配布する。同会の森田次江さん(67)が以前から透明マスクを試作していたが、透明な部分が曇りやすかつまきにくいかな

マスクは塩化ビニールを立体的に切り貼りし、ゴムを取り付け。あごの部分に空間をつくることで曇りにくい構造になっている。森田理事長と次江さんは

21日、米子市の伊木隆司市長に10枚の完成品を贈呈。伊木市長は「呼吸がしやすい、着け心地もいい。われわれも応援するので、ぜひ透明マスクを広げてほしい」とエールを送った。

透明マスク 口元はつきり

鳥取西部のNPO 手作り寄贈



透明マスクを紹介する森田忠正理事長(左)と森田次江さん—米子市加茂町1丁目、市役所

透明マスクを紹介する森田忠正理事長(左)と森田次江さん—米子市加茂町1丁目、市役所

新型コロナウイルスの感染予防でマスク着用が定着する中、鳥取県西部の聴覚障害者らでつくるNPO法人「西部ろうあ仲間サロン会」(森田忠正理事長、約30人)が、口元が見えるビニール製の透明なマスク作りに取り組んでいる。耳が不自由な人たちの会話は、相手の口の動きや表情を伝える必要があるため。会員は広がり期待し、県内の手話通訳者やろう学校などに贈る。(福岡崇広)

手話通訳者やろう学校に

にかけるゴム用の穴を両端に開けた作り。顎との間に隙間があり、息がこもらず曇りにくいという。サロン会では森田さんをリーダーに26日から、総勢10人のチームで約350個を作る。森田さんは「病院で働く手話通訳者やろう学校の先生、生徒の皆さんに使ってもらい、コミュニケーションに役立ててほしい」と願っている。



山陰中央新報に掲載されました！！

5月22日(金)